

published by  
生徒会  
イベント号

# Gyoshu News



## 自然に身をひらき、歴史の声を聴いた！



### 高

校2年生は、10月末に3泊4日の修学旅行で沖縄に行ってきた。  
初日は移動がほとんどだったが、首里城を見学し、ホテル到着後には長田勝男さんの戦争体験のお話を伺った。生々しく、衝撃的な話で戦争のすさまじさを学んだ。  
二日目は、ひめゆりの塔の見学、平和公園などに行き、沖縄でしか体験できない歴史を学んだ。一番鮮明に覚えているのは実際に使われたガマの見学だ。懐中電灯を付けて入っても薄暗く、滑りやすく傾斜も激しい岩場であった。戦争時はライトもない状態で多くの人がいたのかと思うと恐怖を感じると同時に物凄く考えさせられた。



三日目はシーカヤック体験、美ら海水族館、国際通りでの班別自由行動と、楽しいイベントが盛りだくさんで、一番楽しかった。青空の下と青い海の上でのシーカヤックはとても気持ち良かった。シーカヤックのほかにも琉球ガラスやジェットスキー・バナナボートなど沖縄を味わえる体験学習をそれぞれ満喫した。  
四日目の博物館見学では沖縄の歴史を学んだ。

天候にも恵まれ、豊かな自然の中で思い切りはしゃいだ四日間。沖縄らしさを堪能したが、それ以上に大切なことを得ることができた。沖縄が持つ歴史、壮絶な戦争が残した爪あと。これらの事実に想像以上の驚きと衝撃を受け、基地問題に揺れる沖縄について考えるきっかけとなった。戦後70年の節目に「また沖縄に行こう」と思える旅であった。  
(高2山本萌・古家)

### 中

学2年生は、10月26日から29日の間、待ち望んでいた修学旅行に行ってきた。

一日目、原爆ドームと原爆資料館を訪れた。どのクラスも戦争については事前に学習していたのだが、それでも驚きが隠せないほどの凄惨さをみた。世界中の全ての核兵器がなくなったら火を消すことになっている平和の灯火を見て、いつか火が消えることを心から願う、千羽鶴を奉納した。宿泊施設に戻ってからは、戦争体験者の新宅勝文さんの話を聞いた。実際の体験談は生々しくリアルで、戦争をしてはいけないと改めて考えさせられるものであった。  
二日目は姫路城と神戸での班別研修という盛大なスケジュールだ。姫路城の天守閣での景色はともきれいで、風通しもよかった。昼食をホテルで食べ、その後神戸での班別研修が始まった。事前に計画は立ててあったが、偶然見つけたお店や素敵な街並みに目を奪われがちであった。異人館、センター街、中華街など神戸の名所を観光して、買い物を楽しんだ。

三日目、皆が待ちに待ったUSJの日。入ってみるとそこは映画の街をそのまま切り取ったかのようになりアルサーだった。きれいなパークだと思ったが、パークが広すぎて暁秀生にほとんど会わなかったことが怖いくらいだった。三時間待ちなどの乗り物は断念しなければならなかったが、計四つの乗り物にのることができた。お土産を買っていったらすぐ集合時間になってしまい、時間が早く感じた。

最終日の京都。クラス別研修では、和を感じる京都ならではの体験ができた。伏見稲荷や東福寺を見学したクラスや和菓子作りの体験をしたクラスもあった。京都駅で再度集合した皆はお土産などを抱え、満足そうだった。新幹線の中では先生も生徒もぐっすり寝ていたが、元気に帰路に着いた。貴重な経験や楽しい思い出が四日間の修学旅行の中でたくさんできた。  
(中2杉山・西島・竹下)



重なる経験や楽しい思い出が四日間の修学旅行の中でたくさんできた。  
(中2杉山・西島・竹下)



富士山の麓、自然を堪能  
全身を使いきった御殿場合宿



中学一年生は、御殿場合宿で「ふじさんぽ」とキャンプファイヤーを行った。「ふじさんぽ」の往路では、水分をあまり含まない地面に苦戦したが、登っている途中で紅葉した木々を上から眺めることができ、足の痛みを忘れるくらいであった。下山時はスラッシュ雪崩で出来た、えぐられた地面の上を走ったのは楽しかったのだが、あまりにも勢いがつきすぎて自分ではもはや止まることができないような状態で、スリリングであった。

キャンプファイヤーでは、YMC A東山荘の方が用意してくださったゲームをして、皆で盛り上がった。先生たちもゲームに加わり、普段見られない先生の姿を見られたので面白かった。

最終日には班で協力してカレーを作った。メニューどおりに作ったが、班によって味が全く違ったようだった。ちなみに



(中1岩田、高鹿)

二年後を見据えて  
大学見学／高校1年生

秋の遠足で東京へ行き、大学見学をした。コースを選ぶことができ、それぞれ各大学に実際に行き、キャンパスの雰囲気や設備の豊富さを知ることができた。早稲田大学ではちょうど「早稲田祭り」が行われていて、盛り上がりつつあったようだ。授業風景や大学についてもっと知りたいと思えるような見学だった。

(高1梅田)

日本一に向かって叫ぶ！

中学校生活、最後の遠足。そこは、たくさんのアトラクションと悲鳴が飛び交うフジQハイランドという所だ。絶叫系が好きな人はバスの中でずっとまだかまだかと到着を待ち望み、テンションも高まる。一方で、苦手な人は最も来たくないスポットであったに違いない。そして到着。いざ、入場。

高くそびえるFUJIYAMAを目の当たりにし、乗ったら終わりだと思ふほどだったが、僕は行列に紛れた。恐怖とこの身に押し掛かるGとの闘いを何とか制し、解放感に浸った。その後は、乗れる範囲でアトラクションに乗り、ご飯を食べて友達と遊んでるうちにあっという間に集合時間になった。

今回の遠足では乗れなかった乗り物があったりと名残は尽きないが、また今度ここに来られるように今を頑張る受験生である。

(中3石井)

暁秀高校×Dolce 総合優勝！  
沼津コラボ甲子園

10月25日、プラザヴェルデで沼津市「自慢のコレ 高校生×企業コラボ甲子園」の最終発表会が行われた。暁秀高校チームは、沼津の老舗洋菓子店Dolceさんとコラボして、寿太郎みかん、戸田塩、紅茶や抹茶など沼津の特産物を使った六種類の味のドーナッツを販売した。販売後のプレゼンテーションは、バイリンガルらしく英語を織り交ぜたり、テクノロジーを使い視覚的に訴えたりしたので、好評でした。来場者の投票による総合優勝、そして商品部門を見事に勝ち取り、ダブル受賞となった。今後、沼津駅南口に店を構えるDolceさんと、共同開発をしたお土産である「沼'sドーナツ」が販売される。甘すぎず、口解けの良いドーナツなので、みなさんもお正月の帰省に、おやつに、購入してみてはいかがでしょう。

(高2佐野)



大盛況！3年4組  
暁秀バザー

10月4日に行われた暁秀バザーも、例年通り大盛況となった。その中で3年4組主催の「穴子さんの寄せ集め大劇場」も盛り上がりつつあった。「穴子さんの寄せ集め大劇場」では、手作りのスウィーツデコ、古着の販売をした。バザーの途中で、韓国語講座を開いたり、愉快なコントトリオ「PZOOOカ3」の漫才を披露したりして大勢の観客を集めることができた。

おかげで募金や古着の収益が二万円以上となり、「栃木県台風18号等災害義援金」として全額募金することができた。

(中3住田)



オーストラリア、キャンベルハイスクールの生徒もバザーで出店。売上金は台風18号等災害義援金として全額寄付した。

熱戦！高校球技大会

10月20日高校球技大会が行われた。少ない昼休みの時間を割いて練習してきた成果が発揮される運命の一日。天候にも恵まれ、球技大会日和となった。

男子はフットサルを行った。決勝は三年生同士の対戦となり、優勝は3B、準優勝3Cとなった。

女子は体育館でバレーボールを行った。試合が始まる前はバスの練習をしたり円陣を組んで気合いを入れたりとそれぞれ士気を高めていた。例年通りだと三年生同士となる決勝戦が今年は一年生同士の対決と前代未聞、驚きの結果となった。優勝は1B。男女ともに、クラスの絆が深まるよい大会となった。

(高2春田・涌嶋)



感性磨く！中学写生大会

三島の楽寿園での写生大会。両手で作った長方形を覗きながらベストポジションを探し、思い思いに鉛筆で下書きを描き始めた。紅葉が始まり色づいた木々や、池で水鳥がのんびりと泳いでいる姿など、絵になるものがたくさんあった。中には小さな洞窟を見つけて描いている人もいた。描くものがたくさんあるなかで、それぞれユニークな絵が描けた。(中1村上)

芸術は爆発だ！美術部

情景や感情、様々な物をそれぞれ独自の方法で表現する。それが文化部の最先端とも言える美術部だ。基本的には個人製作だが、部員同士で絵を見てアドバイスしあう事もあり、和気藹々としている。コンクールに作品を応募することを原則としており、展覧会に行く度々暁秀生の受賞作品が見られる。コンクールの展覧会へ行く機会があったら是非暁秀生の作品も探してほしい。(中1杉山)

みなぎる強さ！不動の座  
高校バドミントン部

高校バド部所属の一年2組の大利真優さんと赤尾美羽さんが、高校新人戦の県大会でダブルスの部に出場し、見事優勝した。「今回の試合で特に思い出に残ったこと」を聞いたところ、大利さんは「赤尾さんのお父さんが決勝で勝ったときにすごく喜んでくれたこと」が嬉しかったそうだ。赤尾さんは「久しぶりに緊張したこと」だと王者でありながらも、常に挑戦者である意識が伝わってきた。

大利さんと赤尾さんは毎年数々の試合で表彰台に立っており、その強さは日々の練習量の多さが物語っている。大利さんは一週間で13時間くらい、赤尾さんは7時間



英語ダイアット県大会優勝  
全国大会出場へ

第九回静岡県英語ダイアット大会において、高校二年乙組のチームが県大会優勝を果たし、静岡県で唯一、全国大会に出場する切符を手に入れた。課題が多い中でダイアットの立論を作るのに苦労し、夜中まで話し合ったことも多く、直前まで準備をしていた。この結果には驚いているが、次の大会では全国の優秀なチームが集まるので、静岡県代表として恥じぬようにがんばろうと思う。ちなみに、



論題は「日本国は、自衛隊の参加制限を緩和し、国際連合の平和維持活動に、より積極的に貢献すべきである。是非か。」である。皆さんは、どう考えますか。(高2佐野)